

文化庁

令和4年度文化経済戦略推進事業 最終報告書



2023年3月31日

全体スケジュールとアプローチ

全体の進め方

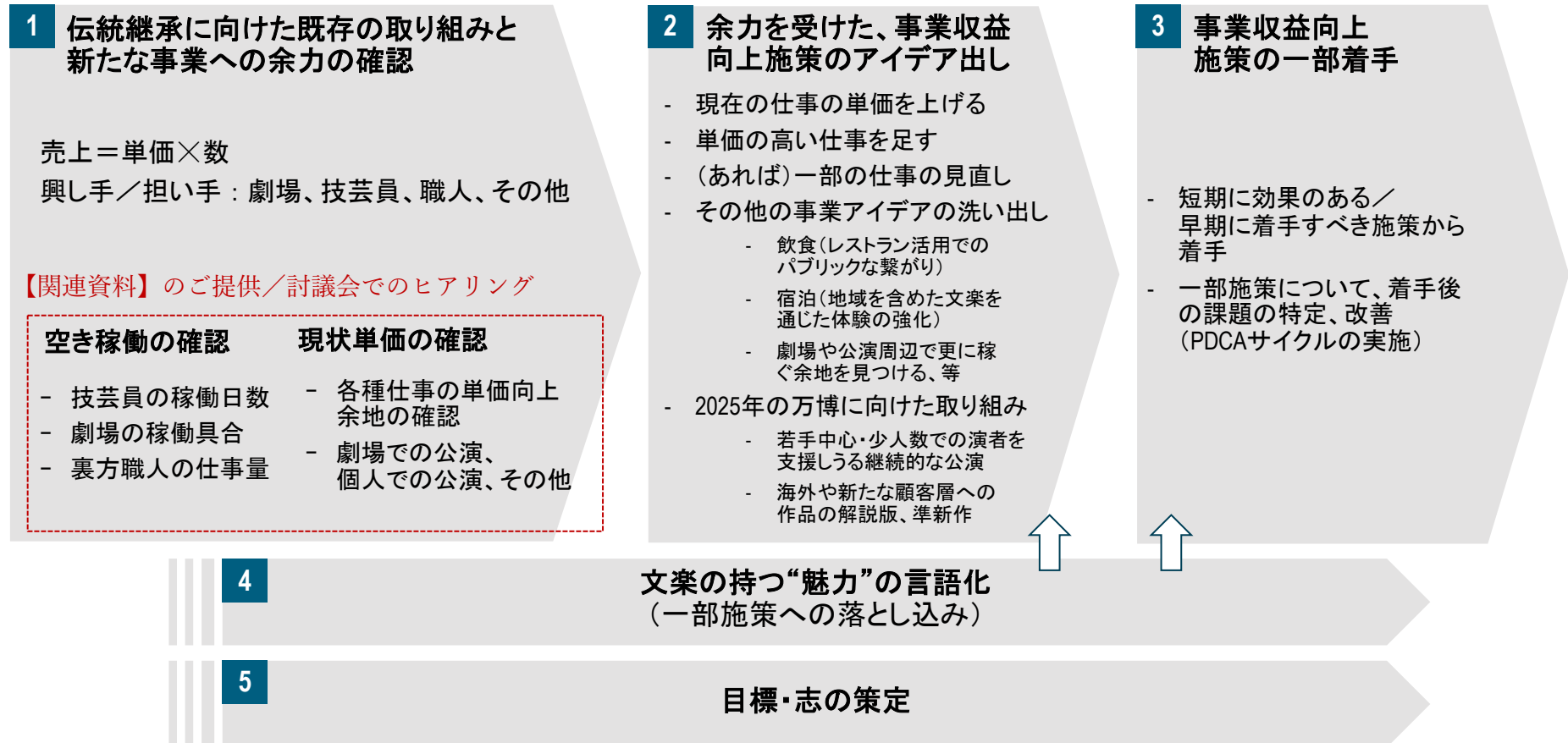
月2回ペースの討議会を通じて、事業収益向上施策を紡ぎ出す。裏付けとなる魅力の言語化も進め、次年度以降の目標・志とともに取り纏める



また討議会とは別に、大阪の行政・経済界・技芸員を集めた協議会を開催（全3回）

事業収益向上施策の検討の進め方

技芸員の収入増加による長期的かつ健全な伝統文化継承を目指し、今ある文楽の魅力を保持・活用しながら、新たな事業施策への落とし込みを推進



資料の共有状況

また検討にあたり、新たに以下のデータを受領し、現況把握に努めた

フォルダ/ファイル名		概要
収支関連	部門収支	- 公演別/劇場部門別の入場数、有料入場数等の詳細データ - 過去10年分
	プログラム等販売状況	- お土産等、劇場内物販の販売状況 - 過去10年分
	公演別販売状況	- 夏休み文楽等、特別公演の販売状況 - 過去5年分
	食堂売店貸付契約	食堂図面、賃料、過去の契約書その他
	国立文楽劇場広告協賛金	- 広告協賛金の推移 - 過去10年分
方針	劇場利用（令和3年度末）	- 貸し劇場としての大ホール・小劇場の活用状況 2021年度末、単年分
	文楽制作方針	劇場公演の計画時の運営基本方針
過去取組	国立文楽劇場バックステージツアー	過去に開催した職員によるバックステージツアー状況
	2025年大阪万博に向けて	国立文楽劇場としての万博への考え方
	レストランが不採算であった理由	レストランが過去退去した理由・内情

(参考) 資料の共有状況

また、昨年度事業における共有資料についても同一のものを受領し、分析結果を活用している

参考) 資料のご共有状況

以下のデータを受領し、分析を実施した

#	資料内容	対象期間	備考	状況
1	財務 (文楽劇場単体での) 財務諸表	直近5年	事業別の収支実績の確認を目的としているため代用データがあれば財務でなくとも問題ございません	単体はなし
2	(文楽劇場単体での) 事業報告資料 (事業別の収入、費用、利益が分かれば)	直近5年	事業別の事業内容の確認を目的としているため代用データがあれば他資料でも問題ございません	単体はなし
3	環境認識 想定している競合及び競合と比較した実績データ (販売額やマーケティング実施施策の側面で実績があれば)	—		調査実績なし
4	販売額、チケット販売量の実績 (演目別、券種別、出演演者、販売チャネルが紐づいていれば)	直近5年		調整中
5	利益実績 (演目別、出演演者や販売チャネルが紐づいていれば)	直近5年		調整中
6	マーケティング施策実施実績、年間の実施時期 (施策、対象ターゲット層、施策実施方法、チャネル等)	直近5年	演目別、券種別に紐づいているデータ、実績があればご共有いただけますでしょうか	調査実績なし
7	上記以外の内部管理指標・KPIの実績値	直近5年	公演別収益率目標やコスト比率目標、実施規模別の人員配置目安等何らかの内部指標があれば	自己点検評価報告書
8	過去事業収益向上に向けて取り組まれた検討や施策実施の内容及び実績	直近5年程度		
9	外部連携実績 (連携効果など成果に関する数値や指標があれば併せてご共有いただきたい)	直近5年程度		
10	顧客属性 来場客数及び顧客データ (年齢、性別、累積来場回数)	直近5年	顧客リスト形式のデータがあればご共有いただけますでしょうか	アンケート結果
11	演目内容への期待や感想、ニーズに関する顧客アンケート	—		
12	組織別拠点別の組織概要	—		文楽劇場概要
13	組織別拠点別の組織体制、人員数	—		
14	過去組織再編実績、採用・退職者数推移	直近5年		単体はなし
#	その他	J-LODlive補助金の各公演内訳		交付決定額一覧

討議会の開催（全12回）

検討会の実施状況

本検討においては、全12回の検討会を開催。前半は文楽を取り巻く状況の整理、劇場を対象とした検討すべきテーマについて議論

開催日時	方式	主なアジェンダ	
#1 2022年8月5日（金） 15:30-18:00	WEB	- 事業者側の自己紹介 - PJアプローチのご共有	文楽を取り巻く状況の整理
#2 2022年9月8日（金） 9:00-10:00	現地	- PJアプローチ微調整 - テーマの初期検討	劇場保有資料についてのご相談
#3 2022年9月30日（金） 13:00-15:00	WEB	- 劇場周辺の街歩き、歴史の理解 - 検討を進めるテーマの検討	過去の取組ヒアリング
#4 2022年10月12日（水） 16:00-18:00	現地	過去の取組ヒアリング （前回に引き続き）	
#5 2022年10月26日（水） 15:00-17:00	WEB	- 全体テーマについての議論 - 各推進テーマの具体的検討	HISのご紹介
#6 2022年11月18日（金） 16:00-18:00	現地	- HISからのご提案 - 文楽ファンインタビュー	

検討会の実施状況

後半は劇場施策の全体テーマ共に、前提となる世界観構想を固め、低予算で早期に検証可能な施策について検討・実行に移すことを目的とした

開催日時	方式	主なアジェンダ
#7 2022年11月30日（水） 15:00-17:00	WEB	・ PJ全体ゴール感のすり合わせ ・ 実施すべき施策の選択
#8 2022年12月16日（金） 16:00-18:00	現地	・ 全体を通す世界観の検討 ・ 協議会の位置づけ検討 ・ 個別実施施策の深堀
#9 2023年1月11日（水） 10:30-12:30	WEB	・ 協議会の位置づけのすり合わせ ・ 事業スキームの検討 ・ 各施策のロードマップ
#10 2023年1月24日（火） 16:00-18:00	現地	・ 世界観についての検討 ・ 4月公演での可能な施策検討
#11 2023年2月8日（水） 10:30-12:30	WEB	・ 世界観についての検討 ・ 協議会の内容・進め方共有 ・ 4月公演での可能な施策検討
#12 2023年2月22日（水） 15:00-17:00	現地	・ 世界観の最終すり合わせ ・ 協議会の内容最終決定

文楽の魅力の言語化 ファンインタビュー

文楽の魅力の言語化

- 文楽の魅力を言語化すべく、書籍等にある過去の歴史、著名人からとらえた文楽の楽しみ方、文化としての位置づけを再び理解した

- 文楽の魅力を発信している「作品・文章」の棚卸し
 - 討議会では、以下のポイントに気をつけながら、叩き台の資料に不足している魅力の補完を実施する。
- これまで伝承してきた本質的なもの、継承すべきもの
 - 享保から明和にいたる40年の間に主な名作が作り出されて、以来230年近く名作を練り上げてきた。
 - 「風」を基本的に伝承する姿勢があり、後世になって「創造」を差し挟む余地を生じさせない。が、明治、大正、昭和の新作があり、いまの古典として通用。
 - 伝承のルーツは初演者。最初に語った太夫の工夫を残す。これを「風」といい大切にされている。
- 初心者の取っ付き易さを担保する間口の広さ
- 興味や練度に応じた段階的なコンテンツ
- 現代の価値観に即したコンテンツの選び方
(過去の価値観や日常を伝える一部のコンテンツが現代の価値観に照らしてタブーであることをいかに考えるか)
- 見たり、聴いたり、見ながら聴いたり、聴きながらみたりするのが文楽。前方だけ見ていれば、大勢の役者が歌いながら話を進行させてくれるミュージカルとは根本的な作劇方法が異なる。
- 現時点で想定している言語化の対象は以下のとおり。可能であれば、言語化した魅力を表すシーンの動画・静止画での切り出しも行う。
 - 人形づくり、操る仕組み、衣装
 - 他の人形劇との違い
 - 300年余りの長い歴史がある
 - 大人を対象
 - 人形が三人遣いの精巧さ
 - 浄瑠璃（義太夫）の語りによりドラマが展開
 - 人形遣いが自分で準備、着物を着せる、針と糸で縫い止めるなど。手先の器用な人が向いている。
 - 「人形の大きさからすると2,300席ぐらいのハコ（劇場）がベストかもしれません。人形の細かい表情などがよく見えますからね」（桐竹勘十郎）

⋮

ファンインタビュー

- 施策のコアとなる文楽の魅力を棚卸しするため、ファンインタビューを実施している
(別途Wordファイル参照)

221118/ファンインタビュー

- K.Hさん／伝統芸能プロデュース

- ファン歴20年
- きっかけ：もともと伝統芸能が好き。全然わからないのがイライラしていた。でもなんとなく見ていた。着物きっかけ。着物を着始めて着れるところを探していた。行き先としての文楽劇場。なんとなく世界が見えてきた。技芸員と知り合うことがきっかけ。友人の友人から義太夫、義太夫を習い始めた。
- 柄と演目を合わせる。世界観と柄を合わせる。そうすると、出かける場所、合わせの参考にする。今日の演目に合わせてとってくれる人もいる。
- 七福神、21人がシュール。
- 見たいポイントによって座る場所を選ぶ。何が好きなところに気づいたらそれに合わせて座る場所を選ぶ。
- バックステージツアーは初めての人にはいいきっかけになる。ツアー会社ではなく、面白い活動をしている友達の誘いが重要。
- 勘十郎さんは何でもやると決めた。
- 自分たちがやっている人が前に出ていかないと新しい人は入って来ない。
- 国立劇場はもっとお土産屋を充実させるべき。お手本は宝塚。値段が絶妙。分かる人はわかるさりげないデザイン。
- 男前推しで売り出すのはきっかけになる。
- パンフレットも伝統踏襲もあるのかというほど変わらない。ポスターも雛形があるように特に代わり映えしない。
- 【大阪万博】逆輸入のアプローチ。世界が認めた芸能という位置づけで伝えていくというアプローチ。パビリオンなどで出ていって見せるべき。人がいるところでやる。開会式で取り扱う。
- 曾根崎心中はカッコいい。ビジュアルとして美しい。文楽の魅力のひとつ、人形がゆえに生々しくないがゆえに光る。役者にひっぱられない魅力。わたなべはじめさんの写真がとてもいい。
- 冥途の飛脚。外国人から見た文楽の美しさ。

：

国立文楽劇場の現状理解・課題意識

国立文楽劇場を取り巻く現状

国立文楽劇場は1984年に4番目の国立劇場として開館。文楽を中心に、歌舞伎、舞踊、邦楽、民俗芸能、大衆芸能（落語・漫才・浪曲）といった上方伝統芸能の保存と振興を図る

1984年に開館、黒川紀章氏による設計

担う2つの役割



文楽専用の舞台設備を擁する
文楽の保存・振興の拠点

歌舞伎、舞踊、邦楽、民俗芸能、
大衆芸能（落語、漫才、浪曲等）
といった上方伝統芸能の
保存と振興

文楽の本公演は国立文楽劇場（総席数753席）で1月、4月、7～8月、11月に行われる。
6月は外国人向けなど各種の鑑賞教室が開催されているほか、7～8月公演の一部は親子で楽しめる演目が上演されるなど、文楽を中心とした上方伝統芸能の保存、振興、普及の拠点となっている。

国立文楽劇場を取り巻く現状

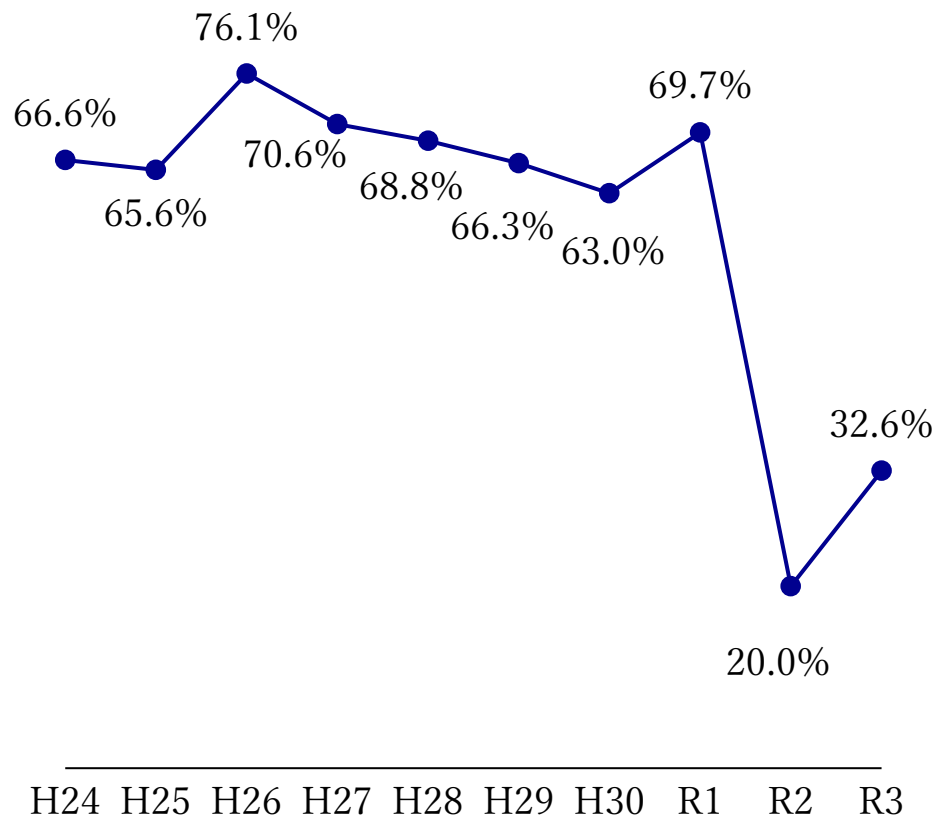
2012年の橋下市長問題以降、10年が経過。近年は広告協賛金契約満了やレストランの撤退といった逆風が吹く中、様々な取組に挑戦しているが……



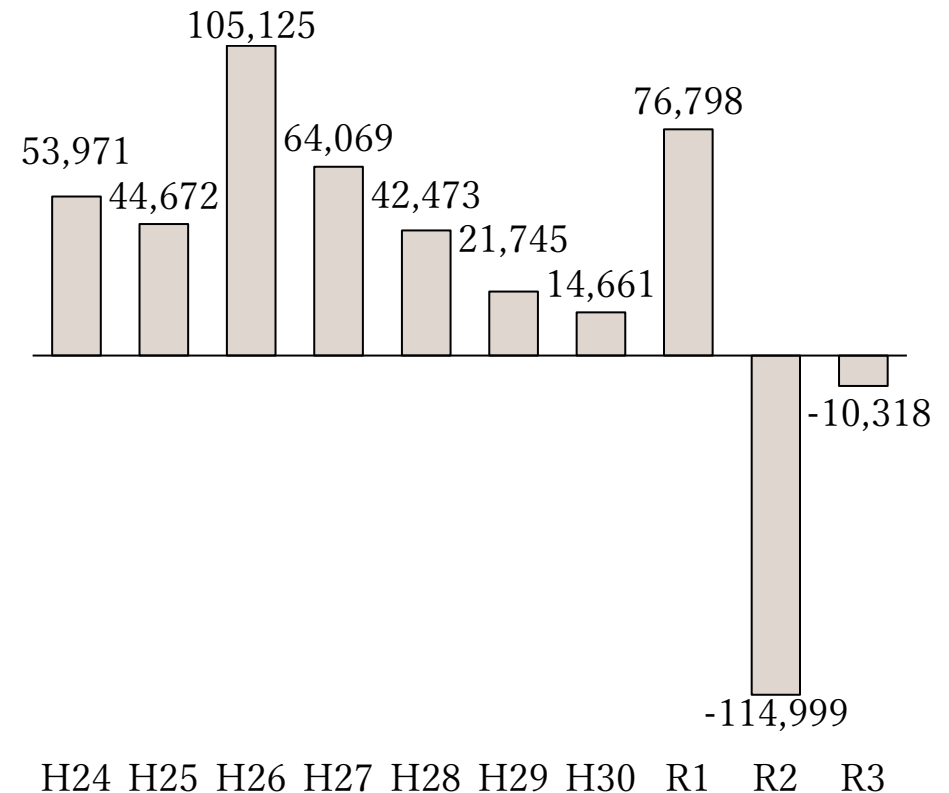
国立文楽劇場を取り巻く現状

過去の満席率はコロナ前まで堅調に推移しているが、徐々に低下傾向で、
伴い、収支も足許では赤字となってしまう

全公演（小ホール含む）での満席率（有料入場率）



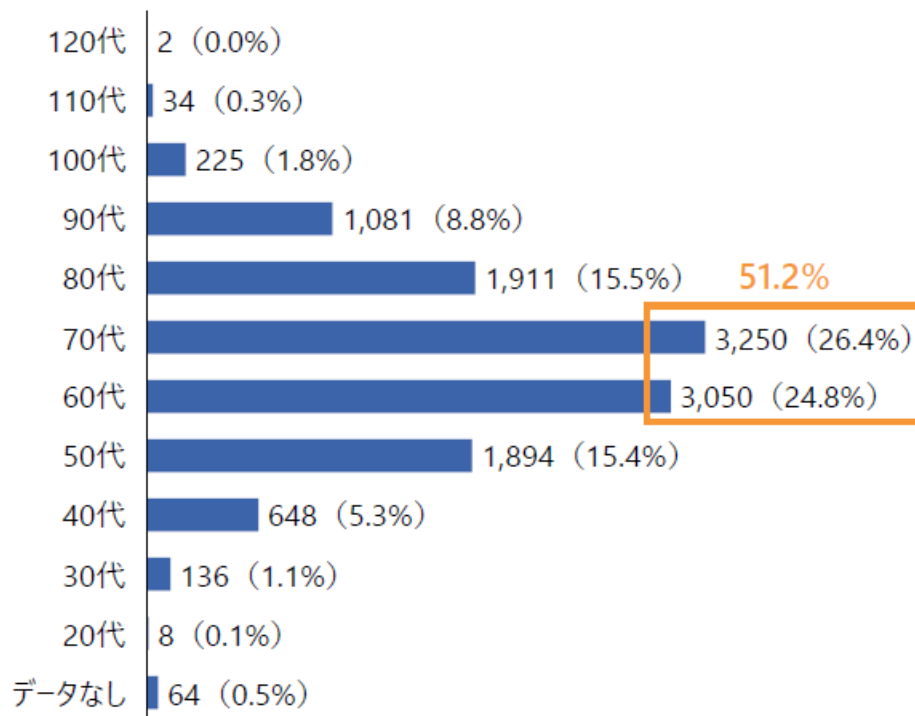
全公演（小ホール含む）での収支 [千円]
（収入に補助金を含む）



国立文楽劇場を取り巻く現状

コロナ影響の大きさに見えるように、顧客層の高齢化は着実に進んでおり
国立文楽劇場友の会の会員層は6-70代が過半を占め、40代以下は1割以下

友の会 年代別構成人数



年齢構成別鑑賞回数別の人数構成比（17年4月～18年1月）

※一度も観覧せずに友の会にならないと想定し、少なくとも全員1回は観覧した上で期間当たりの鑑賞回数を計算

項目	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
120代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
110代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
100代	98.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.9%
90代	90.2%	1.9%	2.1%	0.9%	1.4%	3.5%
80代	76.1%	2.5%	4.8%	2.1%	4.1%	10.3%
70代	67.1%	3.6%	6.1%	3.1%	4.4%	15.8%
60代	65.4%	3.6%	5.3%	2.6%	4.7%	18.4%
50代	65.9%	3.9%	5.4%	2.4%	3.6%	18.7%
40代	65.1%	4.3%	6.5%	2.6%	3.7%	17.7%
30代	70.6%	5.1%	3.7%	2.2%	2.2%	16.2%
20代	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
データなし	0.0%	17.2%	25.0%	10.9%	12.5%	34.4%
合計	70.2%	3.4%	5.2%	2.5%	4.0%	14.9%

Source:前年度事業報告資料より抜粋

振興の方向性や可能性①～劇場の間口拡大～

劇場の間口を広げ、たくさんの人々に文楽/上方芸能の魅力に触れてもらうことで更なる振興が可能なのではないか



Source:文化デジタルライブラリー



Source:「につぽん文楽」ウェブサイト

- 「竹本座」と「豊竹座」の全盛期。競い合い、次々と工夫や改良が重ねられ、優れた作者や演者による数々の名作が人気を集める。
- 人形浄瑠璃は人々の間で娯楽として庶民に非常に開かれていた。「操り段々流行して歌舞妓は無（なき）が如し」と言われるほどの勢力を極めた
- いまでも、「につぽん文楽」（主催：日本財団、写真は浅草公演）のイベントをすると人気が高く、多くの人々が集う
- 歴史の積み重ねの中で、高度な技術に裏打ちされた芸術性の高い「芸術」となっていた一方で、“庶民の娯楽”としての本質は変化していないのでは

振興の方向性や可能性②～コラボレーションを通じた新しい魅力の伝え方～

劇場での取組と並行し、これまでの様々な取組を文楽・大阪全体で更に盛り上げるような座組を設け、大阪万博を見据えた活躍ができないか



■上方芸能の魅力伝える公演200回、歌舞伎と文楽が共演

(主催：山本能楽堂)

- コンセプトは「デパ地下」。能や狂言、文楽、上方歌舞伎等一流の演者が見どころを20分程度に凝縮してコンパクトに上演し、新規ファン獲得を進めるもの
- 山本能楽堂（大阪市）が2006年から開催してきた公演「初心者のための上方伝統芸能ナイト」。2021年10月で200回を迎える
- 手軽さをうたうが、出演者は第一線で活躍する面々。
上方の伝統芸能の担い手たちが交流する場にもなってきた



■桐竹勘十郎氏とチェロ・宮田大氏が共演

(主催：関西テレビ公演事務局)

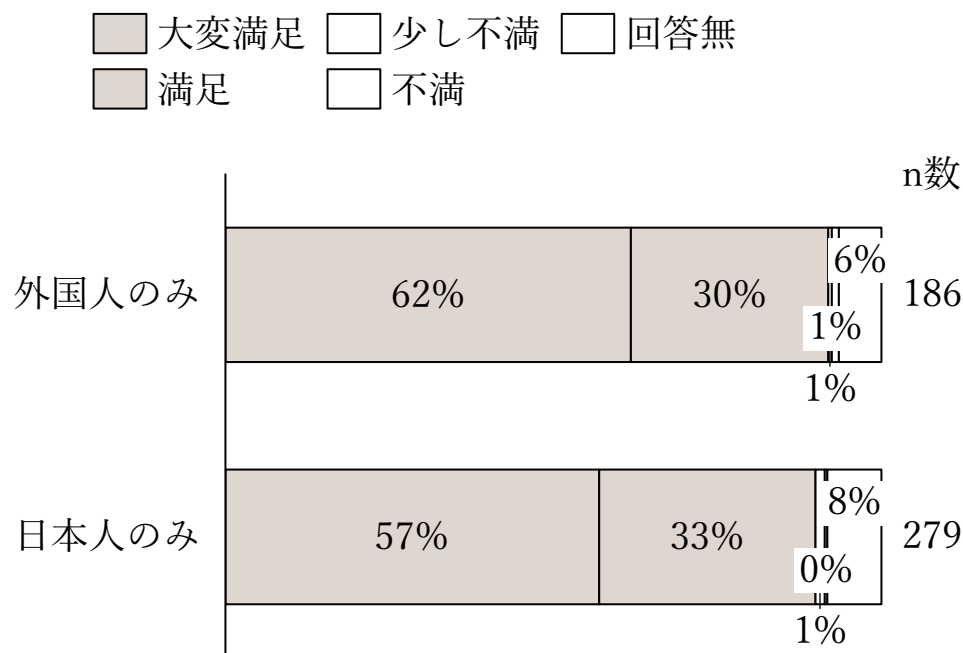
- 文楽の世界をチェロで表現した独奏曲「BUNRAKU」の演奏に合わせて文楽の演目「関寺小町」をイメージした人形の演技を披露
- 「チェロのゆったりとした変化やぎゅっとした変化のある演奏と、（勘十郎の）つま先まで神経の通った人形の表現とで即応しあう、一期一会の演技になる。ホールではなく国立文楽劇場での上演ということもあり、響きよりも感情表現の細やかさを重視した演奏にしたい」（宮田大氏）

振興の方向性や可能性③～インバウンドからの高い注目度～

Discover Bunrakuの評価は高い。観覧体験価値の磨き上げ、宣伝方法の工夫によってインバウンド旅行者等さらなる誘客の余地がある

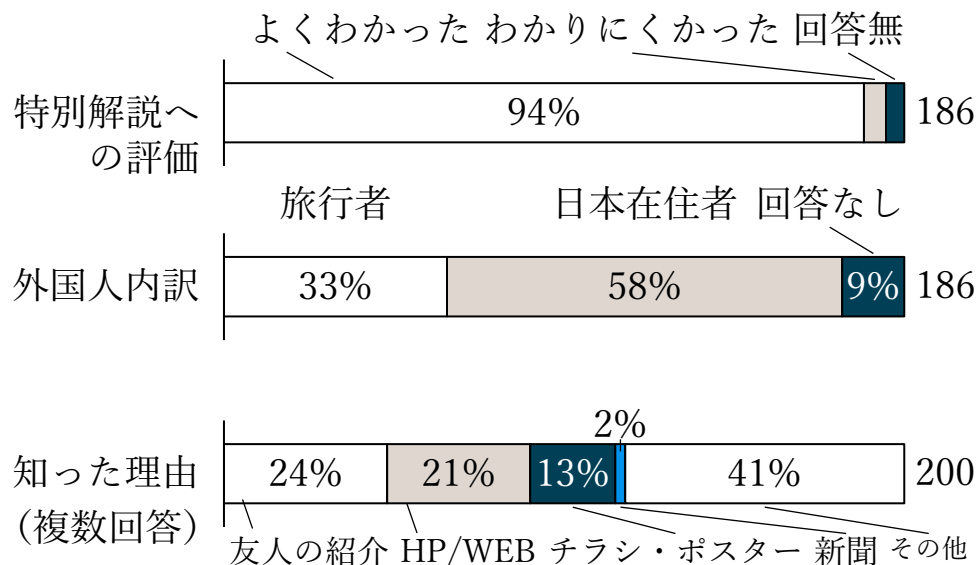
Discover Bunrakuの満足度評価

Discover Bunrakuは外国人のみならず、日本人にも非常に評価が高く、見せ方の工夫の糸口となるのでは



顧客層と取組への評価

特別解説への評価は非常に高く、体験価値の高さが評価されている印象。
他方、旅行者の誘致にはやや課題があるか



“文楽”という伝統の健全な継承、大阪万博での披露を含めた更なる普及に向け、今まさに課題を乗り越えて進化せねばならない局面を迎えている

抱える課題

進化の方向性

国立文楽劇場

- 本公演を含め、中々満席にはならない
- 国立文楽劇場の公演事業が赤字に直面してしまっている
- 地元経済界や地域の中で、“国立文楽劇場”の存在感が薄れてしまっている

- いかにして、劇場に文楽を見に行くという人々の習慣を取り戻すか
- いかにして、劇場としての黒字化を成し遂げて健全な文化継承を為すか
- 文楽とともに、伝統芸能や地域一体の振興拠点として更に発展できないか

（文楽そのもの） 上方芸能全般

- 若い（40代以下）ファンや、新規の観客（外国人含む）が少ない
- 大きな思いと魅力を持つ新しい取組が、“孤軍奮闘”な効果に留まっている

- 今後、若い/知らないお客さんをどのように“文楽”へ目を向けてもらうか
- 技芸員・文楽協会・国立文楽劇場が一丸となり新しい取り組みを手掛け、さらに大きな効果を生めないか

文楽活性化協議会（仮称）の開催 （全3回）

協議会の位置づけ

協議会は、事業者チームで取りまとめた計画のオーソライズを目的とした合意形成の場として位置づけられた

【協議会の位置づけ】

- 目的

- 事業者チームで取り纏めた計画及び今後の推進体制についての情報共有／協議／合意形成につなげる

- 参加メンバー

- [文楽業界]

- 独立行政法人日本芸術文化振興会（国立文楽劇場）
 - 公益財団法人文楽協会
 - 一般社団法人人形浄瑠璃文楽座

- [経済団体等]

- 公益社団法人関西経済連合会
 - 一般社団法人関西経済同友会
 - 大阪商工会議所
 - 公益財団法人大阪観光局

- [行政機関]

- 大阪府
 - 大阪市

協議会の実施状況

実際に、大阪行政・経済界・芸能員を始め文楽関係者の方を招き、課題の棚卸し、“賑わい”を生むための施策方針、世界観について合意

開催日時	方式	主なアジェンダ
#1 2023年2月24日（金） 15:00-17:00	現地 WEB 併用	- 国立文楽劇場を取り巻く現状の共有 - 各関係者（大阪行政、経済界、文楽協会・文楽座・芸能員）からの現状の文楽に対する課題感の棚卸し
#2 2023年3月8日（水） 10:00-12:00	現地 WEB 併用	- 検討会にて考案の個別施策、世界観のご紹介 - 各関係者によるフィードバック、お考えの共有
#3 2023年3月24日（金） 15:00-17:00	現地 WEB 併用	- 個別施策、世界観に関する最終案の共有 - 事業推進主体スキーム案の共有 - 来年度に向けた継続性についての認識共有

本年度の着地として大前提となる方向性や世界観の目線合わせができ、次年度以降の実装に向けて推進体制の整備についても合意済み

協議会要旨

- 本取り組みは、国立文楽劇場単独のものでなく、人形浄瑠璃文楽座、文楽協会、経済団体、民間企業のご理解とご協力を得ながら地域全体として実現に向けて動かしていきたい。
- 本協議会を通じて、コンセプトや世界観についての概ねの理解の共有、コンセンサスを得ることができた。
- 国立劇場での特別な体験という視点から、1階は基本的に上方伝統芸能の発信拠点として街に開きつつ、2階は特別感を残す線引も重要。
- さまざまな具体的な施策があるなか、料飲機能も含めた”五座コート”、地域連携、情報発信は優先度高く取り組むべきテーマ。
- 本取り組みの実現に向けては、核となる推進体制の構築と民間の協力を得るために具体的提案内容が必要。

意見交換（#1）

初回は「賑わい」というキーワードから、様々なご意見をいただいた
（詳細は別添の議事録を参照）

アイディア

【生み出したい賑わいとは】

* 「賑わい」＝人が集い賑やかになること。／繁盛すること。豊かになること。

- 文楽/文楽劇場でどのような賑わいを生み出したいか
- 大阪万博に向けて何を実現したいか

#演目鑑賞＋ 出会い、交流、酒食、情報収集、市

#鑑賞時＋ 開演前後、毎日

#文楽ファン＋ 地域住民、上方伝統芸能ファン、インバウンド、若者

【劇場活性化の方向感とは】

- 文楽劇場にどのような役割を持たせたい。
（追加したい魅力や機能は何か、どういう場所にしたいか）
- 上方伝統芸能の振興も目標としたとき今後、劇場はどう進化していきたいか
（追加したい魅力や機能は何か、どういう場所にしたいか）

「賑わい」をどう達成するのか、前回さまざまなご意見を頂いた中で、国立文楽劇場の在り方や新たな世界観について、お考えをお伺いした（詳細は別添の議事録を参照）

アイディア

- 劇場の「オープン化、再び開く」といった運営の方針、ゾーニングや改修の方針や具体案について、ご意見、ご要望、主体的に関わってみたいことはありませんでしょうか
- 文楽や上方伝統芸能の統一感を出すための世界観の方向性に違和感はないでしょうか、追加で盛り込みたい要素などのご意見はありませんでしょうか

「賑わい」を生み出す施策を推進する実行体制や劇場活性化の裏付けとなる資金の確保について、お考えをお伺いした

アイディア

- 多様な主体者のなかで期待される実行体制のあるべき姿や役割はどうか。
- 劇場活性化のための資金（売上増、補助金活用、寄付金、広告協賛金）をいかに確保して持続可能な取り組みにしていけるか。

更に、第3回では具体施策の合意に加えて、劇場活性化に向けた本取組と大阪万博に向けた多様な主体の取り組みの接点を模索

アイディア

[今後の進め方]

- 劇場活性化に向けて次年度以降の推進体制、段階的に採りうる選択肢

[万博に向けた取り組みアイディア出し]

- 大阪万博に向けた文楽業界の動き（文楽業界）
 - 日本芸術文化振興会
 - 人形浄瑠璃文楽座
 - 文楽協会
- 大阪万博に向けた動きと文楽との接点（行政／経済団体等）

（
*現時点で予定している万博に向けた取り組みを幅広く伺いたい。
*本日は情報の棚卸し、今後の動き出しの初速を掴むきっかけを見つきたい。
）

特に、文楽を“再び開く”というコンセプトでの施策の方向性を合意した

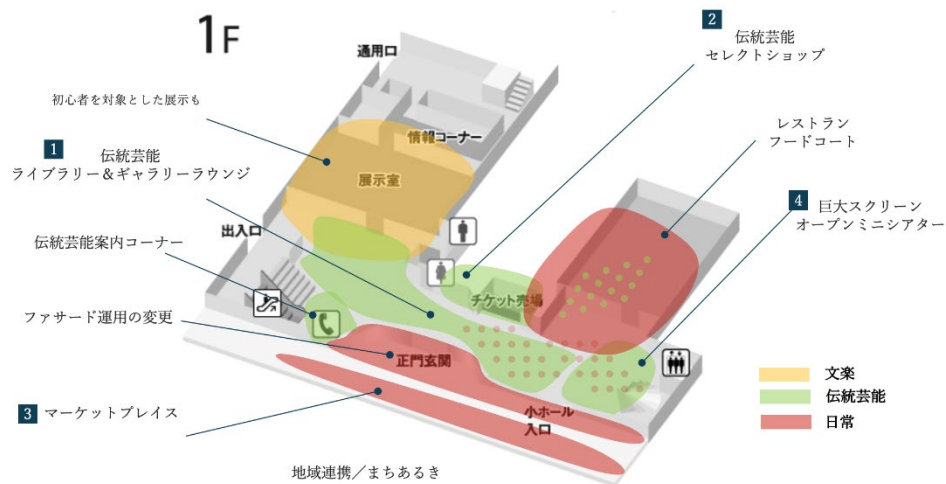
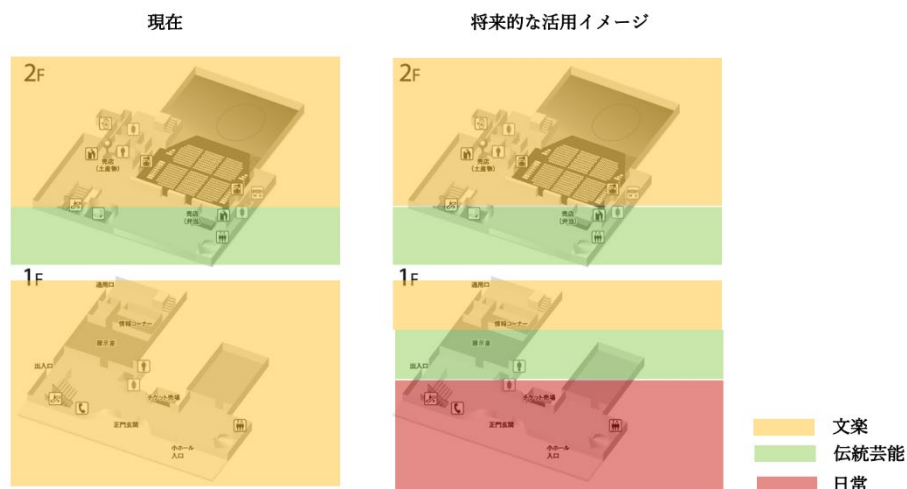
#演目鑑賞

#鑑賞時

+ 開演前後、毎日

#文楽ファン

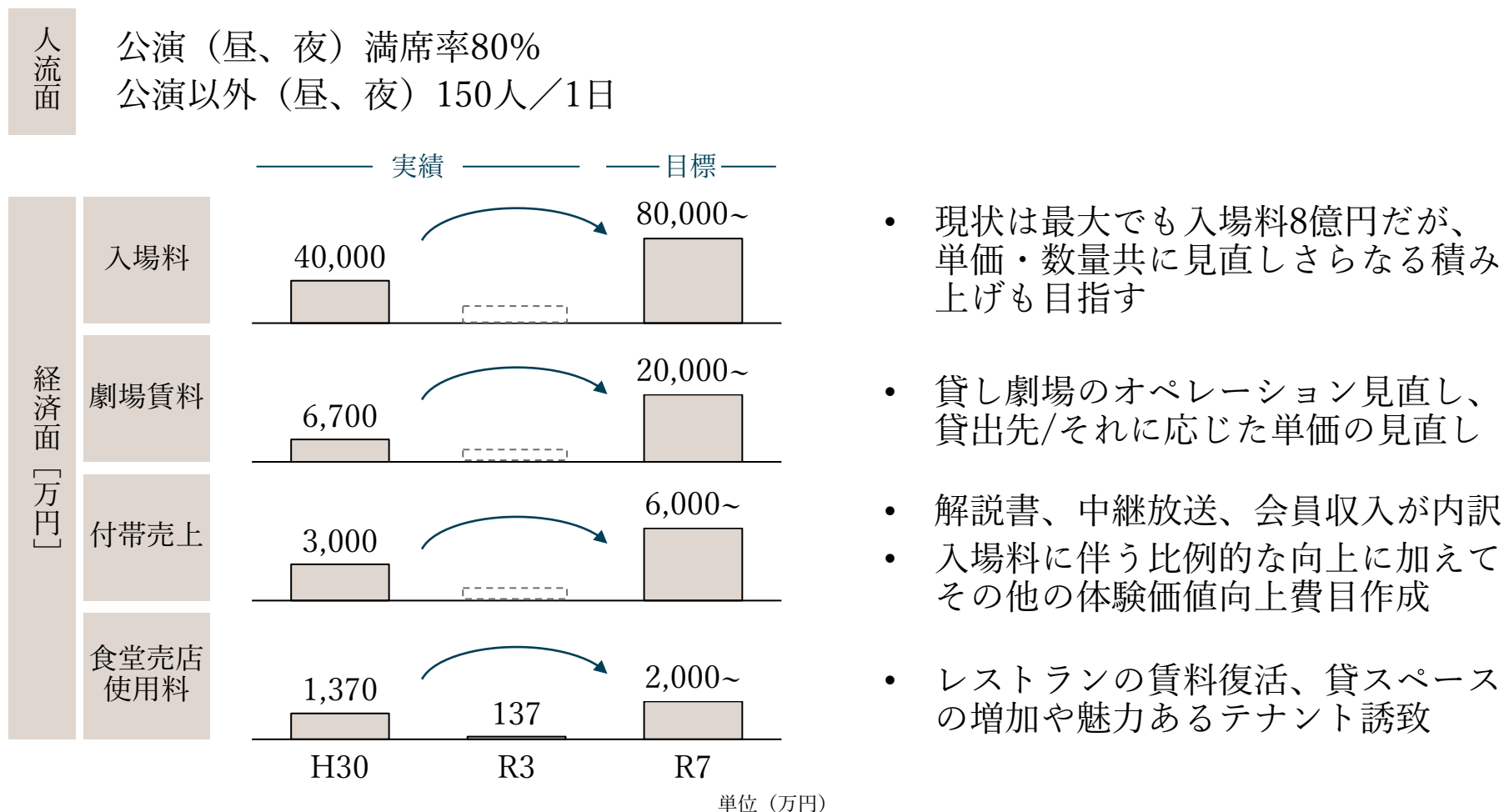
+ 地域住民、上方伝統芸能ファン、インバウンド、若者、新たな中高年層



生み出したい賑わいの方向性と規模感

劇場が公演時だけでなく、常に人が行き交う場所となり、上方伝統芸能との接点が緩やかに生まれる。劇場収支改善に伴い、文楽の支え手や担い手が次々と生まれ、文化振興を起点とした地域の活性化の好循環が回りだす、将来像を見据える

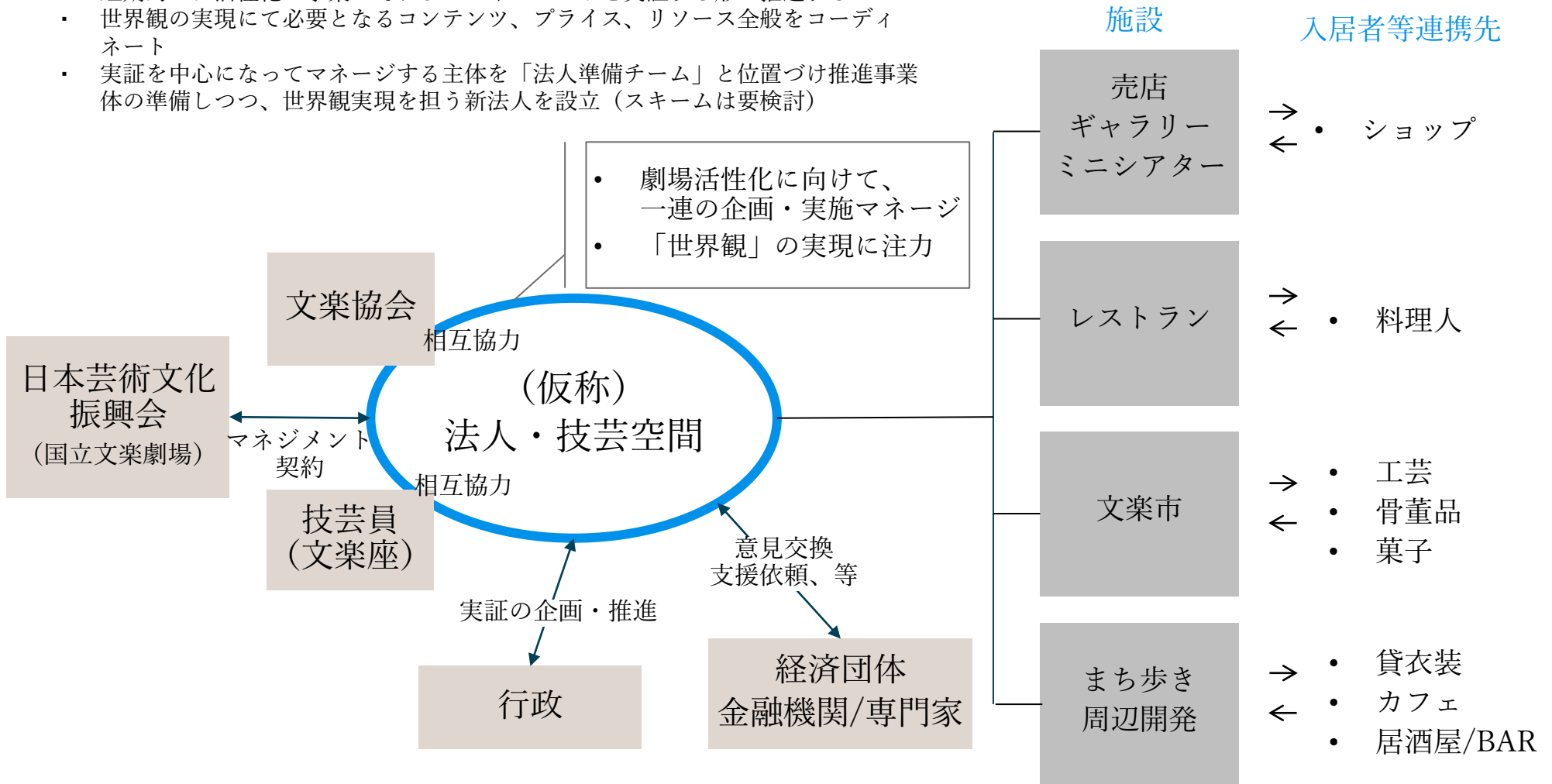
規模感（人流面／経済面）



劇場活性化に向けた推進体制の確立（案）

そのためには、多様な主体が連携して取り組む劇場活性化に向けた活動を、事業全体をマネージする主体を活用しながら運営することが有効か

- ・ 短期的には活性化の事業とそれらのマネジメントを実証する形で推進するか
- ・ 世界観の実現にて必要となるコンテンツ、プライス、リソース全般をコーディネート
- ・ 実証を中心になってマネージする主体を「法人準備チーム」と位置づけ推進事業体の準備しつつ、世界観実現を担う新法人を設立（スキームは要検討）



来年度に向けたロードマップ

- 本年度のゴールは、大前提となる劇場活性化の方向性や目指すべき”世界観”についての理解共有と基本合意。次年度以降、具体的な支援事業を起点に実現可能性が高いものから順次“実装”。
- 全体マネジメントの機能を果たす推進体制を構築し、協力者の発掘、資金調達に着手

取り組み一覧	実行ロードマップ				
	今年度	来年度目指したいこと			
推進体制の構築（令和4年度）	協議会の実施	実施主体の確定			
文化経済戦略推進事業（文化庁）		公募？			
観光再始動事業（観光庁）	公募/採択の可否				
今年度考案施策					
0 情報発信 （デジタルコンテンツ／ SNS）					
1 “五座コート”	（大前提となる） 劇場活性化の方向性 目指すべき“世界観” について理解共有、基本合意	改装計画策定 改装予算計画 資金調達	内装 設計	内装工事 着工	運用開始
3 巨大スクリーン オープンミニシアター					
4 伝統芸能案内コーナー					
2 ファサード運用の変更 （1,3,4を受けて）					
5 伝統芸能セレクトショップ		委託事業者候補の 洗い出し・打診	入札～ 事業運営委託	運用開始	
6 レストラン/フードコート					
7 マーケットプレイス					
8 地域連携／まちあるき 運営スキーム	長期目線での事業者選定/地域業者との連携促進				

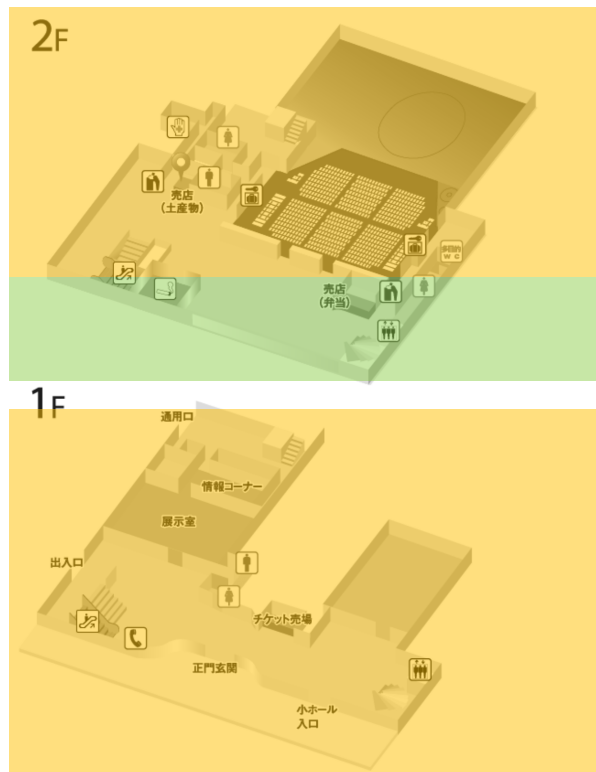
国立文楽劇場 1 階活用計画

上方伝統芸能コンプレックス
—国立文楽劇場を“再び開く”—

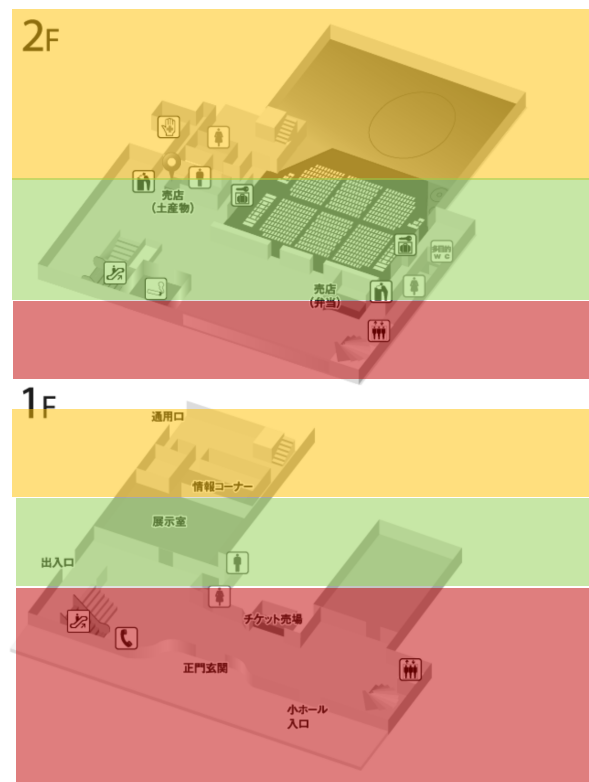
劇場活性化にむけたハード／ソフト面のイメージ（案）

現在はその名称の通り、文楽での利用実態や対外的なイメージが強い
人々の日常導線を劇場に引き込み、親和性の高い上方伝統芸能の発信拠点をも
兼ね、将来的な文楽ファンを育むきっかけを散りばめていく

現在



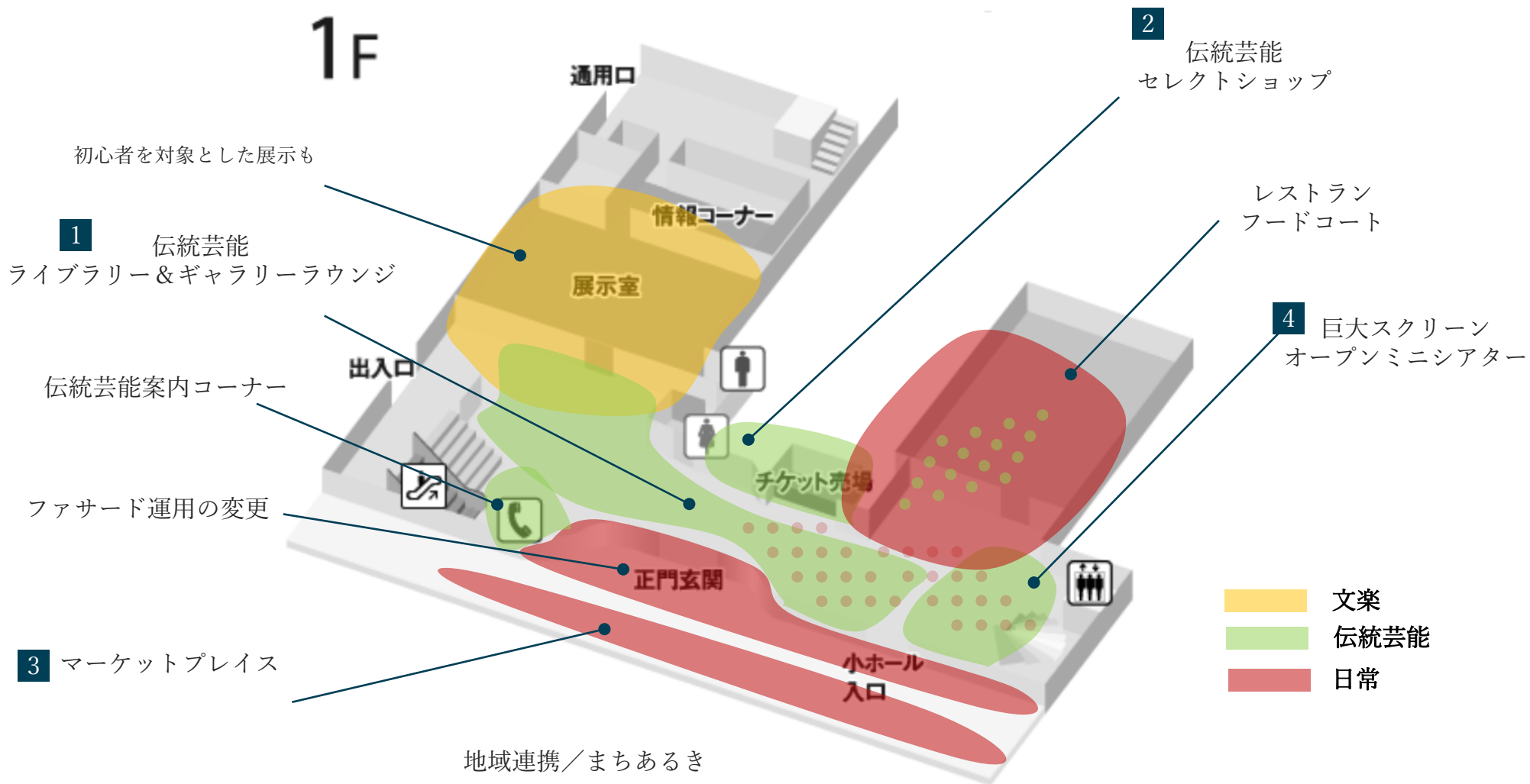
将来的な活用イメージ



- 文楽
- 伝統芸能
- 日常

劇場活性化にむけたハード／ソフト面のイメージ（案）

特に国立文楽劇場 1 階をまちにひらく。各ゾーンごとに、人々に文楽を中心とした伝統芸能の世界に緩やかに触れる接点を設ける



前回議論とのつながり

各接点は、「賑わい」を生み出すための仕掛けとなっている

#文楽ファン＋

地域住民、上方伝統芸能ファン、インバウンド、若者

1 伝統芸能 ライブラリー&ギャラリーラウンジ

2 伝統芸能セレクトショップ

#演目鑑賞＋

出会い、交流、酒食、情報収集、市

3 マーケットプレイス

レストランフードコート

伝統芸能案内コーナー

#鑑賞時＋

開演前後、毎日

4 巨大スクリーン オープンミニシアター

地域連携／まちあるき

ファサード運用の変更

1

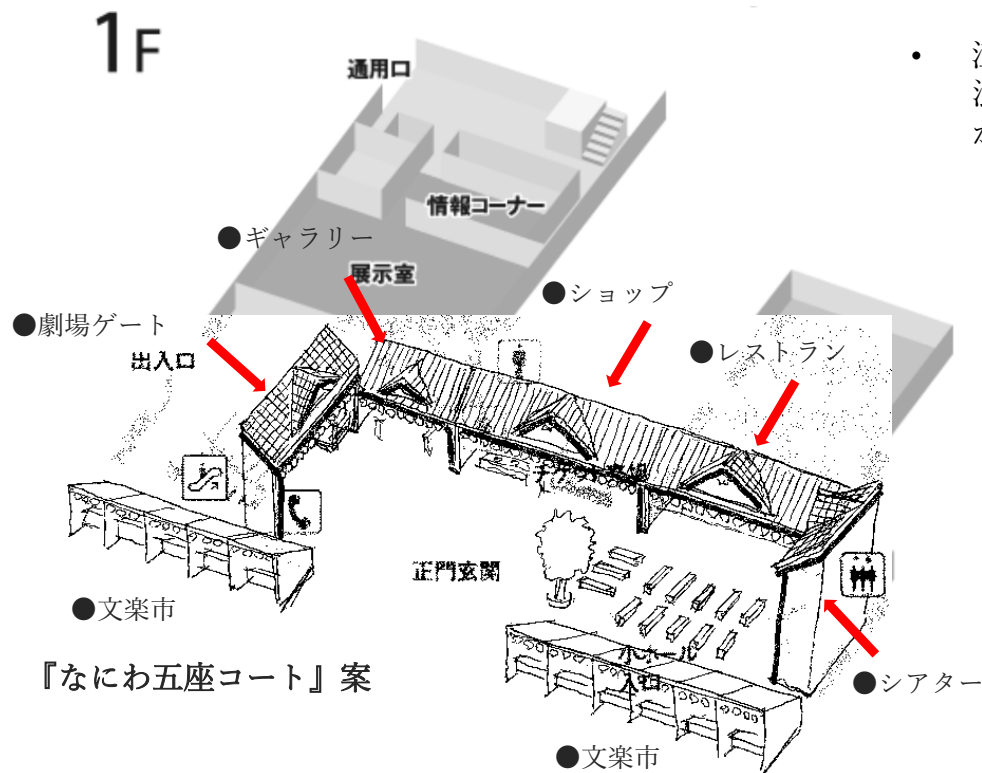
伝統芸能
ライブラリー
& ギャラリー
ラウンジ

文楽を中心とした伝統芸能コンプレックス

『なにわ五座コート』

江戸の昔から庶民の観劇娯楽の中心として賑わっていた「浪速五座」へのオマージュ。世界に発信。

- 伝統を受け継ぎ、未来に発展させる拠点として、**文楽を中心にした「伝統芸能コンプレックス」空間を展開。**
- 江戸時代、堺筋を挟んだ道頓堀に弁天座・朝日座・角座・中座・浪花座(竹本座)の「浪花五座」といわれる演劇界を代表する劇場が集まり、庶民の娯楽の中心として賑わっていた。



将来的な実現像

- 1階には「五座」の入り口をイメージさせる**五つのファサードを配置**、表の「文楽市」との間にできる広場（コート）に観劇客以外にも自由に訪れることができる賑わいの場を作る。
- 五つのファサードはそれぞれ、
①二階劇場への案内と階段の入り口、
②伝統芸能ギャラリー、③売店、
④レストラン、⑤ミニシアターに繋がる。
- コートでは誰でも腰掛けに座りカフェの飲食、ミニシアターを楽しむことができる

2

伝統芸能
セレクト
ショップ

初めての「文楽」グッズ

文楽だけでなく、伝統芸能や日本のアイデンティティを感じる、ちょっとうれしいギフトショップ

将来的な実現像

<伝統芸能全般のセレクトショップ>

- 和風過ぎず、日本を感じるしつらえ。全世代/外国人客も入りやすいテイスト。用が無くても立ち寄れる
- 伝統芸能のアーティストの企画作品、伝統芸能の魅力を自宅に持ち帰られるグッズなども販売
- 美術館のショップのように自分や友人に気軽にお土産を買えるお店。ちょっといいもの、嬉しくなるもの、あっても困らないものを中心にセレクトしたギフトショップ

<出張ショップ>

- 劇場内にオリジナルのポップアップショップを作る
(現状商品の中から一部セレクト、パッケージや陳列の工夫で見栄えを改善し、販売促進につなげる)

<演目てぬぐい>

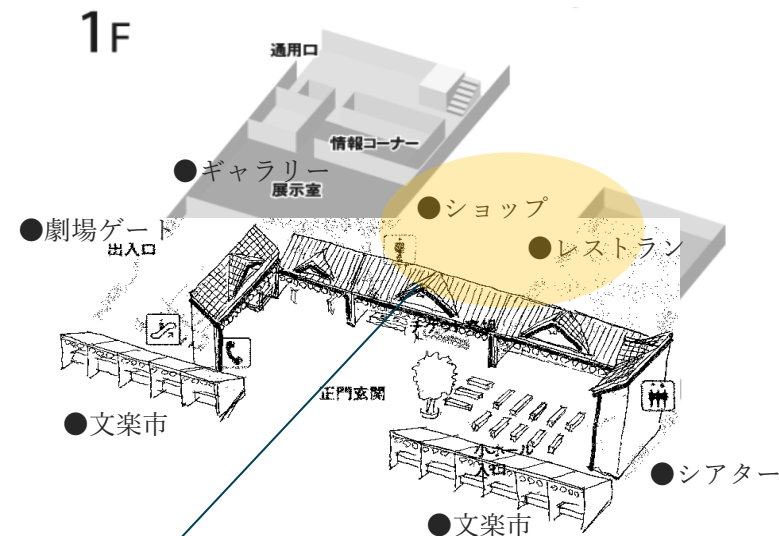
- 演目とつながりのあるデザインのてぬぐいをシリーズ化、第1弾として、まず1つ作成する

<他ゾーンとの連携>

- カフェ/レストランと連携し、コーヒー豆や軽食の販売
- ショップ内にカフェを併設

短期的な着手

他連携



ショップを必ずしも観劇客のみに限定しないものとして改装する

3

外構部分
マーケット
プレイス

『文楽市』 文化を次代へつなぐ「蚤市競座」 ～SDGs12 不要なものを必要とする人へ～

将来的な実現像

<文楽市>

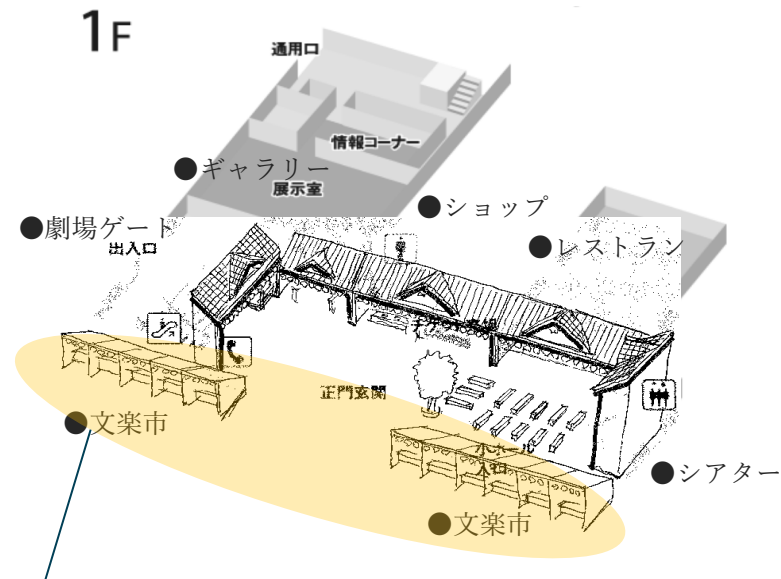
- ・劇場を目的としない人にも開かれたマーケットプレイス
- ・毎月〇〇日定期的に開催、出店数10店舗程度
- ・劇場（伝統芸能）と出店舗との統一感、清潔感を大切に
- ・生活骨董から古美術
- ・幅広い客層で賑わいづくり（若者～インバウンド）

短期的な着手

- ・年度内に連携先候補との協議開始（京都含め、関西有力企業の調査中）
- ・開催に合わせた具体的なイメージづくり
- ・実施に向けたテスト開催

他連携

- ・オープンミニシアターを使って競りの開催
- ・地域連携まちあるき（生國魂神社骨董市～文楽市）



ファサードや劇場前面を市として開放、
街と劇場内を繋ぐ役割/地域の賑わい拠点
として働く

4 オープンミニシアター

オープン化に向けて、
ロビーへの入りやすさや常時の情報発信のために
文楽/伝統芸能に関連した映像を放映するミニシアター

将来的な実現像

<オープンミニシアター>

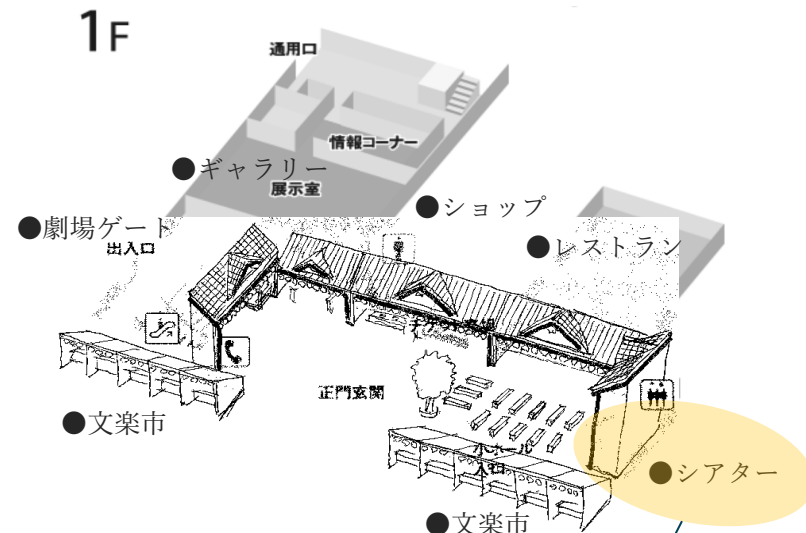
- ・ シアターを用いた、過去の文楽小屋の再現
- ・ インスタレーションを含め、文楽を中心とした伝統芸能に関連した文化発信拠点としての活用
- ・ NEW伝統芸能の発信

短期的な着手

- ・ 大型スクリーンの設置
- ・ テーマ、文楽、伝統芸能、コラボ、歴史、文化など15分から30分の動画をセレクト
- ・ アドホックに技芸員の出演によるイベント
- ・ 外国人/体験が浅い人向けの歴史・文化背景映像の放映（題材に関連した歴史文化映像/過去に博物館やNHKで流したようなもの）

他連携

- ・ 文楽市とのコラボレーション（競りの実施）
- ・ 地域街歩きと連携し、黒門市場や生國魂神社の紹介



ミニシアターにより、公演外であっても鑑賞や情報発信を実現

伝統芸能
案内コーナー文楽を含めた伝統芸能初心者に向けた情報提供
インバウンドの外国人向け、伝統芸能観光の拠点としての活用

将来的な実現像

<伝統芸能案内コーナー>

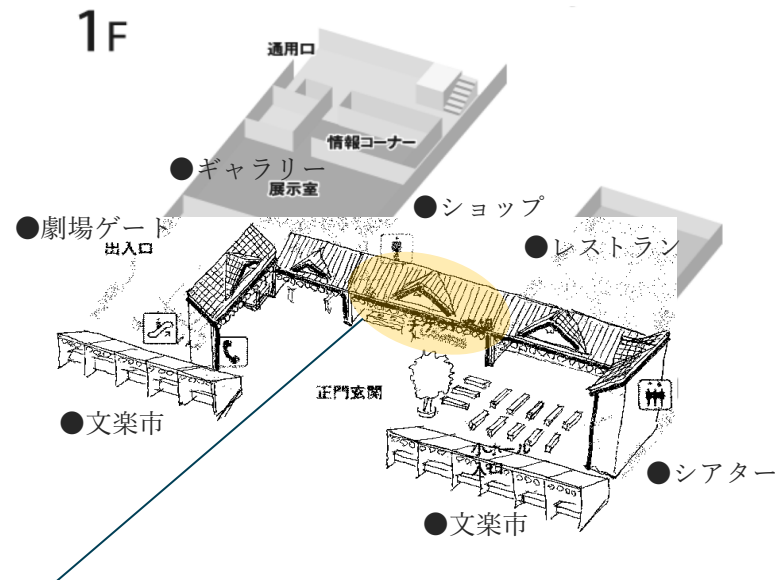
- 有人カウンターの設置、伝統芸能コンシェルジュ
- 伝統芸能に関連し、なんば/日本橋周辺観光案内所機能
- 多言語対応
- 観覧チケットの販売、関連イベントの案内

短期的な着手

- 案内モニターの設置
- 関連動画の放映、
- 関連チラシのQRコードでの読み込み、スライドショーの設置
- 関連チラシの設置（紙媒体）

他連携

- 地域街歩きとのコース/体験整備



チケット売場周辺で、観光案内を含めた
伝統芸能観光の拠点として活用

ファサード
運用

- ・ 劇場を地域にひらくファサードづくり
- ・ 日常導線を引き込み、誰でも気兼ねなく入れて文楽の世界に触れる

将来的な実現像

<劇場を地域に開くファサード>

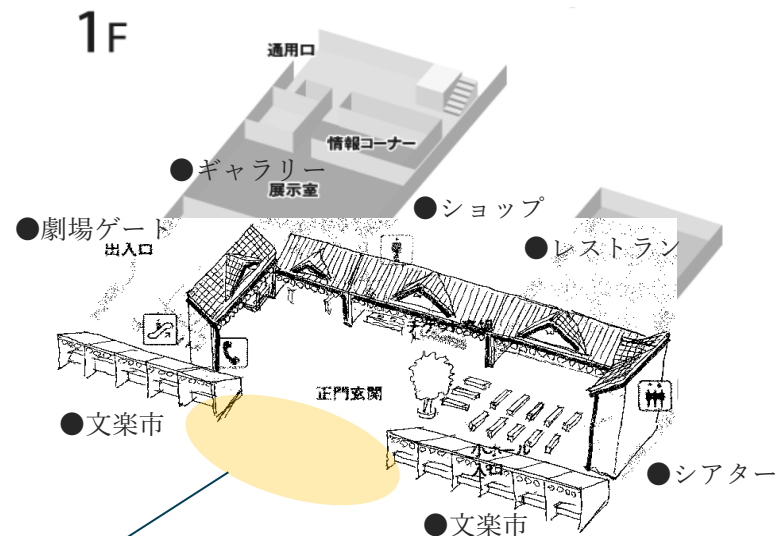
- ・ 視認性の高いファサードへの改修工事
- ・ 外構、歩道とシームレスにつながり、劇場の中の空気が歩道でも感じられる、車道からも垣間見える
- ・ 将来的な施設内飲食店との連携・オープンテラス化
- ・ 四季や公演ごとでのファサード演出の変化

短期的な着手

- ・ 入口/出口扉の取り扱いルール策定
- ・ 正面ファサードの照明の追加
- ・ 警備員の立ち位置変更
- ・ ファサード周辺へのベンチ等の設置
- ・ デジタルサイネージ等の設置
(周辺環境含めた懸念は存在)
- ・ 内部と外構をつなぐ床面の工夫
(伝統芸能／文楽の世界観)

他連携

- ・ 飲食店と連携し、ファサードを含めたオープンテラス化
- ・ 文楽市と連携した機能・用途の可変性



公演や四季に合わせてファサードを変更、より入りやすい劇場を目指す

～ 欲動するエロスとタナトスの地を、人形浄瑠璃という現象から読み解く ～

将来的な実現像

短期的な着手

- 他連携

- ・マーケットプレイス（文楽市）への出店
- ・オープンミニシアターでの「物語」の紹介



※引用元：Google社「Google マップ、Google Earth」をきづきアーキテクトが加工

文楽劇場界限

文楽の魅力を余すところなく楽しむことができる座席ラインナップ

座席

楽しみ方やファン属性に応じて座席をゾーニング、ゾーンごとに文楽の違った味わいを提供

実
現
像

- ・ 劇場が1984年にオープンしてから約40年が経過。技術の進展も踏まえて、お客様により見やすく、より快適に観劇してもらえるよう、座席を改修する。
- ・ 座席ラインナップを拡充し新しい文楽の楽しみ方を創出する
* 改修に併せて予約システムの刷新も必要

椅
子

- ・ 体格の大きいインバウンドにも対応した座席サイズ
- ・ 長時間座っていても疲れない形状

座
席
の
変
更

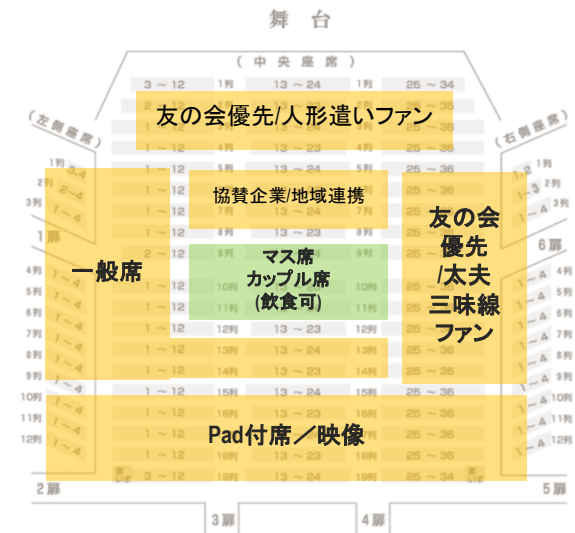
- ・ 座席配列を一律にせず、バリエーションを増やす。
 - ・ 習熟度別（初心者・熟練者）
 - ・ 嗜好別（近くで見たい三芸等）
 - ・ 属性別（協賛企業・地域関係者等）
- ・ 座席の足元通路幅の確保
- ・ 見やすさのための前席／後席のずらし幅の調整

価
格

- ・ 座席種類に応じた単価設定を柔軟に設定することによって、平均単価や全体売上向上につなげる

鑑
賞
企
画

- ・ 熟練者が初心者に教えながら観劇
- ・ お誕生日シート、芸員がハッピーバースデー
- ・ 観覧記念フォトブース



短
期
的
な
着
手